



さかえ

平成28年
4月号
第389号

発行 / 栄村役場



*

3月18日（金）秋山小学校最後の卒業式が行われました。卒業式にはたくさんの地域の皆さんも参加され、秋山小学校396人目の卒業生となった魚田宝来さんの門出をお祝いしました。

また、卒業式に続いて閉校式が行われ、最後の校歌斉唱では2人の児童、先生方、地域の皆さんの大きな歌声が体育館いっぱいに響きわたりました。

4月からは栄小学校秋山分校として新たなスタートを切ります。

主な内容

- 平成28年施政方針・教育施政方針……………P2-4
- 平成28年度役場体制について…………… P5
- 村長選挙、議会議員補欠選挙について…………… P6
- 入学おめでとう…………… P7
- ジオパーク通信…………… P10
- 保健だより…………… P12
- 公民館報(第310号)…………… P14-21

メッセージを受けました。多くの皆様のご支援と村民各位の努力によつて、復興も進み、平穏な日々を取り戻しつつありますが、ある種の虚脱感めいたものもまだぬぐいきれません。そうした中、この信越県境エリアが

「苗場山麓ジオパーク」として、昨年12月に認定書をいただいたことは、私どもにとつて誠に大きな喜びでした。一年の半分近くが雪に覆われ、3メートルを超える積雪の中で、8千年も前から暮らしを続けてきた我々の歴史が認定の一つの要因でありました。

これを機に、もう一度栄村の豊かな自然、文化、歴史などを学ぶ、ふるさと学習を義務教育期間の中で体系的にしつかりと位置づけ「地域学習プログラム」として確実なものにしたいと考えています。先人の歴史を学び、大地や自然の営みを受け入れて、ふるさとで暮らすことの自信と誇りを醸成していきます。

また、当然、子どもたちには義務教育としての一定の学力を保証しなければなりません。基礎的な学力が身につけていないと、学年が上がる都度に学習することが苦しくなってしまう。学校の組織力、教師の授業力によるところはもちろんです。学校と家庭が協力して、家庭での学習習慣を定着させることが重要です。基礎的な学力がしつ

かりと身につけていければ子供の伸びる要素は格段に高まります。子供、学校、家庭が学習に対する共通理解の下で、自ら学習に取り組む「栄村家庭学習スタンダード」を確立させたいと思います。

また、学習の深度や広がり、子どもたち本人の夢や希望に大きく左右されることから、将来の自分を考えることに繋がる「志教育」にも力を注ぎたいと考えています。以上、ふるさと教育を充実させること、学習習慣の定着を図ること、さらに子どもたちの「やる気スイッチオン」に向け、学校長・教頭を要として、小中が連携して取り組んで行くことにしています。

秋山小学校は4月から栄小学校の分校という体制になりますが、本校とのつながりを深め、学習環境が広がることで、児童の将来にとつて必ず良い結果が生まれるものと確信しています。分校となつても秋山郷の学校として、誇り高く、輝ける存在でいてほしいと願っています。尚、統合に当たり、誠心誠意、記念事業等に取り組んでいただいたPTA、地域の皆様、学校職員

の皆様、心からの感謝を申し上げます。これからの感謝を申し上げる次第です。これからも、皆様方からのご支援を引き続きお願いしたいと思ひます。次に生涯学習関係について申し

上げます。昨年は、震災直後から、村の文化資源の保全にご尽力をいただけてきた、地域資料保全有志の会の全面的な支援を得て、村の文化施策を展開する拠点施設「栄村歴史文化館（こらっせ）」を設置することができました。現在は栄村

公民館がこの施設に入つて、関係事業の拠点として活動しながら、歴史文化館として、稼働ができる準備を進めています。また歴史文化館の基本コンセプトと活動の在り方等について、関係の先生方から貴重な提言もいただいているところです。

正式な開館に向けて、栄村公民館の諸事業と栄村歴史文化館の役割・活動方向等、それぞれの想いを融合させ、本館が親しみやすく楽しい施設として、末永く地域に貢献ができるよう知恵と工夫を凝らしていきたいと考えています。

また、子どもたちが健全で伸びやかに育つてほしいという願いの下、青少年育成協議会が柱となつて取り組んでいる「自然学校」や「子供祭」は先導するリーダーの存在に、活動成果の多くが委ねられています。この若き指導者集団は、子どもたちと村の自然や文化をつなぐ大きな役割を担っています。活動の内容が安全でさらに充実して行くことができるようにリーダー集団の研修に力を注ぎたいと考えています。

若者たちのこうした活動が必ずこれからの栄村を築く大きな力となってくれるものと信じているところです。子どもたちの動きを見守り、支えていただいている育成協議会の皆さんに感謝を申し上げ、本年も楽しく、緊張感ある活動が展開できるように期待したいと思います。

一人ひとりが地域社会の一員として、地域との関わりを深め、自分の個性や能力を発揮しながら充実した毎日が過ごせるようにしたいものです。栄村で暮らし、いくことに自信を持って、そして栄村を誇れる人づくりにつながる社会教育活動、生涯学習の展開を図っていきたくと思ひます。

教育の営みは、知、徳、体を兼ね備えた人材を育ていくことだと言われています。このためには、基本的な生活習慣を身につけたうえで、学習のおもしろさに気づき、自ら意欲的に学ぶことが大切です。教育委員会では、子どもたちが自主的に創造的に自ら学ぶ力の育成に取り組むとともに、予測不可能な社会に遅しく対応できる力を育むことに意を注いでまいります。

（平成28年第1回栄村議会定例会
教育施政方針から抜粋）

踊りの輪は 絆の輪



栄小学校3年生との交流

公民館報

さかえ

第310号

平成28年4月1日発行

- 発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺 9214-1
- 電話
0269-87-2100
- 編集
栄村公民館報編集委員会

さかえ田植唄愛好会 有田よし江

5年前、栄村が震度6強の地震に襲われた時、ふるさと栄村の復興を願って「さかえ田植唄」が生まれました。私たちは全国から頂いたご支援に感謝の気持ちを忘れないうようにと毎週日曜日、役場階に集まって踊りの練習をしています。そんな折、栄小学校3年生の児童たちと楽しく踊りの交流をしてきました。普段は大人だけで練習をしています。こうして子どもたちと踊ることができてとても楽しい時間を過ごすことができました。子どもたち一人ひとりから頂いたお手紙もとてもうれしかったです。

また、4月17日には「なちゅら」で開かれる飯山市民芸術祭の参加に向けて「さかえ田植唄」と「秋山のよき節」を猛練習中です。なにしろ東京から月岡翁^{おんしやう}翁^{おん}さんら4人が、唄、三味線、笛、おはやし等、生演奏で参加してくださるといいうのもう大変なことになりそうです。20代から81歳まで、津南からの参加も含めて男女11人、もう緊張感やドキドキが止まらないのは私だけで

しょうか。覚えるより忘れる方が早い、手と足の動きがバラバラ、気が付いたら汗びっしょり、けっこういい運動になります。たまには意見の合わない時もありますが、そこは「和を持って尊しと成し」の精神で、わきあいあいとうまくいくようにお互い歩み寄っています。そして最後は「ああ、楽しかった。また今度ね。」と笑顔で終われたらいいですね。

あれから5年、道路や建築物等ライフラインの復興は大方終わりましたが、心のケアや精神面での復興はまだまだこれからです。小さな村だからこそできることがある。一人老いても安心して暮らせる、自分の居場所がある、私たちにできる何かを探して、これからも栄村で絆を深めていきたいと思っています。

みなさん踊りの輪に加わって、楽しく絆を深めていきませんか？



「こらっせ」とは旧志久見分校を改修して完成した栄村歴史文化館の愛称。昨年4月より栄村公民館がここに入り、すでに何回かの講座を開催していますが、栄村歴史文化館のオープンは今月の8月6日を予定しています。現在は展示の準備中。この施設の様子や情報をこの「こらっせ通信」で発信していきます。

こらっせは栄村の歴史や文化、冬の手仕事や自給自足といった暮らしを後世へと伝え、来村者へ紹介するとともに、栄村の未来を創造していく場所です。昨年度公民館では郷土料理やわら細工の技術を継承する講座をいくつか開催し、多くの村民の方にご参加いただきました。この冬は特別雪が少なかつたからかもしれません、わら細工や郷土食といった先人から受け継がれた技に関心が高まっている

ようにも感じています。

こらっせでは民具や文書の展示や公民館講座だけでなく、いろいろなことができます。これからはゼンマイの季節。それぞれのうちで干すのもいいですが、ここにかまどや薪、日当たりのよい駐車場がありますので、みんなで集ってお茶を飲みながらゼンマイ干しをするのはいかがですか。また、昔の写真を集めていて、昭和30年頃の小学校運動会や青年団の活動、各集落の御祭礼など、昔懐かしい写真の整理をしています。昔の写真やゼンマイ干しを「かけ」に、ぜひ「こらっせ」へ遊びにきてください。みなさんのお越しをおまわしています。

4月の予定

4月23日(土)午前10時 役場発
「遺跡報告会に行こう!」
 ○定員20名
 ○参加費800円(入場料・保険含)
 県立歴史館(千曲市)で開催される遺跡報告会にて、昨年平滝で行われたひんご遺跡発掘調査の報告が行われます。希望される方は栄村公民館(87-2100)まで

文書博士が村に滞在?

こんにちは。この四月から一年間、村に滞在することになった白水智(しみず・さとし)と申します。村の歴史や文化のことを調べたり、皆さまから教わりたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いたします。

千葉県にある中央学院大学で教員をしています(そう、毎年箱根駅伝に出場するあの大学です!)。村とのご縁は十七年前からで、もとと秋山の歴史を調べたくて古文書を探しに来たのがきっかけでした。大学院生の仲間たちと毎年春・夏・秋の三回ずつ村に通ってきては、古文書の調査や撮影をしてきました。十年前からは、さらに地理学や林学・民俗学・生態学などいろいろな分野の仲間たちと村のことを調べるようになり、五年間にわたって毎年三月にはかたくりホールやとねんぼで報告会を開いたりしてきました。それが一段落したのが二〇一二年三月。これからは栄村に来る回数も減るかなと思っていた矢先に、大震災が発生しました。

村では古民家や古い土蔵が解体

され、歴史や文化を語るモノたちが次々に失われていく悲しい状況を目にすることになりました。その後は、今までのご恩返しに、少しでもそれら文化財を救出して残そうという活動を始め、「地域史料保全有志の会」を結成して、毎年十回ほど自宅のある神奈川県相模原市から通い、四〇日以上を村で過ごすことになりました。今も救い出した古文書などの整理を、村の皆さんや首都圏から通ってくる仲間などと続けています。

今年は大学の研究休暇を利用して、毎月十数日ほど村に滞在できることになりました。屋敷の教員住宅をお借りして秋山に滞在します。普段は志久見にできた栄村歴史文化館「こらっせ」で古文書の整理をしたりし、週末には秋山で山里暮らしのことを教えていただきます。あちこちに出没するかと思いますが、どうぞ気軽に声をかけてください。そしていろいろ教えてください。どうぞよろしくお願いたします!



『江戸に出稼ぎに行くこと』

あーそんなことがあったんか
〜ど先生の栄村昔語り〜 其の十五



地域史料保全有志の会
鈴木努 (通称:ど先生)
イラスト作成:佐藤洋平

新年度が始まりました。皆さんお変わりなくお過ごしでしょうか。この冬は十年来の少雪だそうで、三月に村に伺った時は季節が一ヶ月早く周っているような感じでした。雪が多すぎても大変ですが、少すぎても水不足が心配になります。ともあれ、冬が終わりました。せめて夏は去年のような冷夏にならなければよいと思います。

今回は、箕作村の村人が江戸での奉公を終えて帰る時にもらってきた手形(証明書)を紹介します。奉公というと時代小説などに出てくる商家の奉公人がイメージされますが、いわゆる商家の奉公人は主人の郷里や関係の深い付き合い筋の紹介で採用され、長年住み込みで働き独立を目指すものでした。今回紹介するのは、半季勤めの出稼ぎのお話です。

手形の内容のあらましは、男

女二三人の名前をあげて、この人々が酉年(寛保元年・一七四二)一〇月に江戸へ「冬奉公」に来て翌年一月いっぱいまで実直に勤め上げたことを証明する、というものです。手形の日付は寛保二年二月朔日(新暦三月七日)となっており、奉公人の一季または半季の区切りが二月二日と八月二十日だったので、ちょうど半季を終えて宿下がりする時期にあたります。こうした短期の奉公人を「出替り奉公人」と呼び、冬季の奉公人をさす「冬奉公」は江戸の冬を象徴する言葉の一つになっていました。

手形を書いたのは江戸南伝馬町二丁目の長兵衛という人物で、名前に「宿」と脇付けしています。

「宿」は、当時江戸などで奉公の口入人(斡旋業)をした「人宿」を指すかと思えますが、はつきりしたことはわかりません。江戸の人宿は主に武家奉公人の斡旋を営ん

でおり、宝永七年(一七二〇)から幕府の命で一三の組合に組織され「番組人宿」と呼ばれるようになります。武家は格式に依じて中間や小者を幾人か必ず雇っていないくはならず、武家屋敷が多い江戸はもとより、各地の城下町には多くの武家奉公人の需要がありました。しかも常に供給が足りず、各藩では武家奉公人の確保に頭を悩ましていました。ただし古文書に登場する九兵衛ですが、当時の

沽券図(町割図)に名前が見つかりませんでした。九兵衛の「宿」は沽券主(地主・家主)として店を構えるほどではなく、組合にも属さない零細な口入人だったようですので、主に町屋の奉公人を扱った業者だったと思われる。なお南伝馬町は現在の中央区京橋二丁目あたり、現在の中央通りの両側にあつた町並みです。奥州道中筋の入口にある大伝馬町とならんで東海道筋の入口にあり、幕府の伝馬役(人足・馬を負担する役)を務める由緒を持っていました。

両町で口入れ業の発達を促したといわれています。江戸市中でも古い町で、二町あわせて「両伝馬町」と呼ばれ、江戸天下祭りでは大伝馬町が閑古鳥の出シ、南伝馬町が猿の出シを仕立てて、出シ行列の先頭を飾るのが慣わしとなっていました。

手形の宛名は「信州箕作村 名主組頭衆中様」となっていますので、この手形は奉公から戻った人々が村役人に江戸で働いたことを証明するために書かれたものとわかります。

この手形からは、彼らが集団で江戸と在所を往復したことが読み取れます。奉公に出た箕作の村人は、二組に分かれ、第一陣が十月十七日(新暦十一月二四日)に江戸に到着、ついで同二三日に第二陣が到着しました。第一陣は平吉・平兵衛・三右衛門・三太・四郎・貞・伝・久兵衛・半兵衛・藤兵衛・権助・弥郎・つる・七の一四人、第二陣は与兵衛・丹右衛門・郡八・善助・源助・新八・伝兵衛・又助・明石の市郎兵衛の九人です。この二三人は九兵衛方を宿とし、九兵衛の世話でそれぞれの奉公先に勤めることになりました。続きます。

地域史料保全有志の会活動報告会を開催しました!!

3月13日(日)に地域史料保全有志の会の平成27年度の活動報告会が開催されました。5回目となる今回は、栄村歴史文化館「こらっせ」2階の一室に、教室を再現した会場で行われ、村内外から60名ほどの参加者にお越しいただき、旧志久見分校の5・6年教室は満席に。

皆さんご存知とは思いますが、地域史料保全有志の会とは、震災をきっかけに、被災文化財の救援・保全を行っている有志団体です。5年前から年に10回程度、各回3日から5日間の活動(文書の目録作成、民具の保全・資料整理、土器の調査、栄小学校児童への特別授業など過去50回)を行ってきました。「こらっせ」ができてからは、8月のオープンに向けて展示用の棚を手作りし、森の廣瀬博明氏土蔵を再現するといった活動を続けています。

今回の報告会では、このような活動報告の他、公民館報でおなじみの「ど先生」こと鈴木努先生によるライブ版「こんなことがあったんか」昔語りで、善光寺地震見



▲報告会の様子(撮影:鈴木努)

聞記について発表していただきました。栄村からは、中澤謙吾さん(小滝)による「ひんご遺跡発掘体験記」を軽妙なトークで発表いただき教室を沸かせていました。

有志の会の活動は今後も続きます。次回(第51回)からの活動予定は左記のとおりです。村民の皆様一緒に歴史文化館を創っていきましよう。

- ・ 4月28日(木)〜5月2日(月)
- ・ 7月16日(土)〜19日(火)
- ・ 8月4日(木)〜8日(月)
- ・ 9月1日(木)〜4日(日)

栄村の鳥「ブッポウソウ」



県の天然記念物にも指定されているブッポウソウ。5月の連休明けくらいに飛来し、9月上旬には東南アジアへと巣立つ渡り鳥です。栄村では巣箱かけの成果があつてか、ここ数年ブッポウソウのつがいの数が増えています。警戒心の強いブッポウソウは営巣、産卵の時期(5月中旬〜6月下旬)に巣箱へ近づくと営巣しなくなる可能性があります。ブッポウソウを観察するときは、林へは入らず道端から観察するように心がけ、声をかけあつて村民みんなで見守りましょう。

栄村自然植物園の見ごろ

春の雪解けから6月は花盛り。佳麗にまたひっそりと咲く花々をぜひご覧ください。



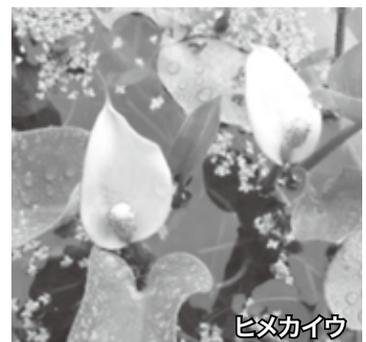
ウスバサイシン

4月

とにかく花を咲かせましょう♪と背丈の低い植物たちが花を咲かせています。(ニリンソウ、フクジュソウ他20種以上)

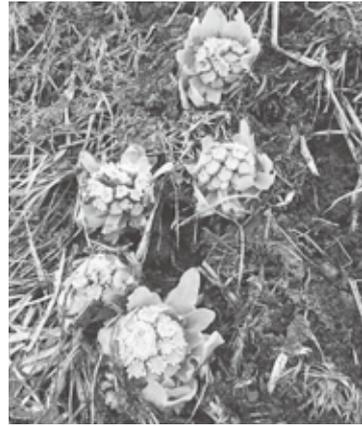
5月

芽を出し、しっかりと背丈をのばし、葉を広げ、主張して花を咲かせます。(イカリソウ、ツツジ他30種以上)



ヒメカイウ

栄村風土記



今年の冬は雪が少なく、3月の初めには顔を出したほうきんとう。雪が解けると一斉に顔を出すことから『春の使者』とも言われています。お彼岸前には花咲きほうきんとうになっていました。ふき味噌、てんぷら、甘酢あえと春の食卓に彩りを添える山菜です。

春の山菜には苦みがあります。苦みは冬の間に身体に溜まった毒素を排出するデトックス効果があるそうです。縄文時代から食べられており、冬眠から目覚めた熊がまず口にする食べ物とも言われています。体の新陳代謝を活性化して目覚めさせてくれる旬の短い貴重な山菜らしいことがわかりました。さて、どんな効果があるかとふき

のとうの栄養素と効果を調べると、まずカリウム（塩分や老廃物を排出し、むくみを軽減し生活習慣病の予防に効果的）、ビタミン類（新陳代謝を高めエネルギー代謝を活発にし、抗酸化作用がある）、食物繊維（腸の調子を整える。ごぼうより食物繊維が多いとか）、フキノール酸（咳止めや花粉症予防への効果）、ケンフェロール（免疫力アップ、メタボ予防、動脈硬化予防への効果）、植物アルカロイド（腎臓、乾燥の機能を高めてくれる働きがある）、フキノリド（香り成分で胃腸を丈夫に）、ビタミンK（骨粗しょう症予防）、鉄分（貧血予防）、更にはアンチエイジング（更年期障害の予防）の効果もあり、恐るべし！ふきのとう。恐るべし！先人の知恵。

さて、東部谷には長瀬にカタクリ街道、笹原にカタクリの里山があります。地域の方が共同作業で刈り払いを行い、毎年きれいな花を咲かせてくれます。旧東部保育園、旧東部小学校の桜の木もとてもきれいです。『こらっせ』近くの桜の木は東部谷では一番最初の見ごろとなります。今年も例年より早くお花見ができるかもしれませんね。

（館報編集委員 和）

栄村の子どもたちが驪山館主催 第52回全国書初展覧会で受賞しました！

長野市長賞
飯山高校2年 宮川雄大（箕作）



長野県日中友好協会賞
飯山高校2年 桑原絵里華（北野）



信毎文化事業財団賞
飯山高校1年 上倉優那（箕作）



蘭亭賞
栄小5年 樋口爽乃（横倉）



特選
飯山高校2年 藤木俊希（極野）
津南中等教育学校1年 樋口駿介（横倉）



素晴らしい賞、おめでとうございます！

図書室だより

～子どもの読書について～



📖 なぜ読書が必要なの？

子どもの頃の読み聞かせを含めた読書は想像力を養うことができ、感性が豊かになるといわれています。また、知識が豊かになり、語彙が増え、それにより自分の思いを言葉で伝えることができるようになります。読み聞かせにおいてはおうちの方とゆったりと過ごす時間にもなるため、子どもに安心感を与えとも言われています。

📖 どんな本を選べばいいの？

本といってもいろいろな本があります。また、子どもの成長過程によって本の楽しみ方も異なります。ここでは年齢に合わせた本の選び方を福音館のホームページを参考に皆さんに紹介します。

★★★★ 0～2歳 ★★★★★

「ことば」「生活」「体験」の中で生きている赤ちゃん。はじめて絵本に出会う赤ちゃんにとって、絵本はおうちの方と一緒に遊ぶおもちゃみたいなものです。水の音や身の回りの音が出てくるものや、果物や動物といった本物の絵が描かれている本がおすすめです。

★★★★ 3～4歳 ★★★★★

この時期の子どもたちは、ことばの力もぐっと伸びて、興味関心も範囲もびっくりするほど広がります。このころからお話を楽しむことができるようになってきます。耳から言葉の世界へ入り込み、想像力(物語を頭の中で思い描く力)や空想力といわれる力を養う入口がこの時期です。昔話をはじめとした「物語絵本」がおすすめです。

★★★★ 5～6歳 ★★★★★

4歳の延長として物語絵本の最も必要とされる時期です。文字が読める子どもたちも増えてきますが、あえて「自分で読む」ではなくおうちの方や、身近な大人に読んでもらって楽しむことが大切です。子どもがお気に入りの一冊を見つけたときは、何度も繰り返し読んであげてください。繰り返し楽しむことが、子どもの読書の特徴です。

★★★ 小学校1・2年生 ★★★

この時期の読書にも絵本は欠かせません。「読んであげるといつまでも一人で読む習慣も力も身につかなくなる」というのは大人の独断と偏見、誤解というもの。一人でも読み始めるかと思いますが、少し長い物語を、おうちの方が読んであげることも大切です。

★★★ 小学校3・4年生 ★★★

このころが読書の分かれ道といわれており、この時期に本当におもしろい良質の作品にめぐり会えるかどうかで大きく左右します。感性がもっとも成熟するこの時期は、本格的な空想の世界の入り口になるような、ファンタジーや冒険の物語がおすすめです。

大人が想像している以上に、子どもは絵本の物語に触れることで自分の世界を広げていきます。普段の会話に絵本のセリフを取り入れてみたり、真似てみたり。5分あれば十分1冊の本を楽しむことができます。ぜひ子どもや孫と本を介して楽しい時間を過ごしてみてください。

栄村図書室(役場2階)開館時間

平 日／午前8時30分～午後5時
土・日／午前9時～正午

図書ボランティア募集中!!

半日を図書室でゆっくり過ごしてみませんか?お問い合わせは栄村教育委員会事務局(87-3118)まで♪



私のベストセラー

乙女の日本史

(著者：堀江宏樹 / 滝乃みわこ)

まじめにふざけた歴史雑学書

巷にあふれる「男のための日本史」にツッコミつつ、乙女目線で日本の歴史を読み直す、女性のための日本史本です。女性の目線での、歴史観なので、これまでとは違った解釈で歴史に触れることができるかもしれません。日本史が苦手だった私でも読みやすかったです。歴史が苦手な中高校生のとっかかりになるかも!?(T.Y)



おおきくな〜れ

大人顔負けのおしゃべいさん。
今日もピーククさえおいます。
毎日賑やかな小島さんです。



はなよ
花代ちゃん(6さい)

廣瀬 翔さん宅(青倉)



年輪 (139)

年輪は風雪に耐えて積み重ねた歴史であり銘木の条件でもある。激動の明治・大正・昭和そして平成を生きてきざみ込まれた人生の年輪は磨かれた銘木のごとく輝く。

- ①人生を振り返ってみて…
- ②うれしかった・楽しかった思い出は…
- ③今思うこと・言いたいこと



滝澤三四吉 程久保 (84歳)



山本富子 野田沢 (86歳)



宮川ムツ子 野田沢 (88歳)

①程久保生まれ。国民学校高等科を卒業後、野田沢郵便局に勤めた。当時は百姓や出稼ぎ、木ざりをしていた人の方が何倍も稼ぎが良くうらやましかったが、学校の先生に「なんでも10年は我慢しろ」といわれたことを胸に耐えてよかったと思う。

②結婚し、自分の子どもが無事に生まれてきてくれたことが本当にうれしかった。選手やコーチとして野球に夢中になっていた時は一番楽しかった。

③本当にecoについて考えているのかと思う。夜間のライトアップやイルミネーションで電気を使えば、それだけの電気を生むために発電しなければならず、それが地球温暖化につながるかもしれないと不安がある。

①平滝生まれ。国民学校高等科を卒業後、軍事工場で3か月働き、空襲が始まった頃に村に帰ってきた。戦争中は男性が出兵したことで男手が足りなかつたので国鉄に勤めた。あの頃は平滝駅に女性職員が3人いた。

②近所の仲間や兄弟会で九州、四国、北海道と日本各地へ旅行したのが楽しかった。昨年息子に新幹線で金沢へ連れていってもらったことがうれしい。

③近所の仲間がいいので、さべったり笑ったりしながらお茶のみをするのが楽しみ。山に入るのが好きなので春が楽しみだ。今が一番幸せ。子どもの世話にならないように、元気に幸せに暮らしていきたい。

①野田沢生まれ。国民学校高等科を卒業後、夏は百姓や養蚕、冬は出稼ぎへ行き、終戦前は坪野の営林署にも働きに行った。戦時中は家に疎開してきた子どもたちが10人も来ていたので、野菜を作ったりサツマイモのツルを食べたり食べられるものは全部食べた。

②旅行が好きで、いろんなところへ旅行に行った。姉妹で行った8日間のオーストラリア旅行は楽しかった。

③今と昔では生活が真逆のよう。食べ物が贅沢すぎるようにも思う。若い時から針仕事や細かいことが好き。これからは針仕事を楽しみなが、子どもにも迷惑をかけないように自分の事は自分でやっていきたい。



幼い頃から、土木の仕事に携わる父に憧れ、現在は土木技術に関して四苦八苦しながら学んでいますが、楽しい学生生活を送っています。今の自分の置かれている環境は生まれてから関わってきたすべての方々の支えがあつてこそです。将来は学費を出してもらっている親をはじめ、様々な方々に恩返しができるように社会で活躍したいと思っています。

^{さえき}福原冴基さん (19歳) 小赤沢



去年の夏に家族で引っ越してきました。慣れない土地での生活、子育てにとっても不安を感じた半年間でもありましたが、家族をはじめ、ママ友との交流や近所の方たちなど、村の暖かい人たちに支えられて栄村の暮らしにも慣れてきました。子どもたちには都会では感じることでできない四季の中でのびのびと育ってほしいです。私自身皆さんにお会いする機会も多くなると思いますが、よろしくお願ひします。

^{あさよ}樋口麻代さん (35歳) 小滝

村民広場

平成28年度公民館・生涯学習係事業計画

期 日	事業名	
7月3日(日)	栄村駅伝大会	
8月6日(土)	栄村歴史文化館開館	
10月10日(月)	歩け歩け大会	スポーツクラブ 主催
10月30日(日)	第38回 栄村 総合文化祭	
2月5日(日)	栄村スキー大会	

栄村自然植物園の日

※毎月第2・4火曜日 朝9時から

4月	5月	6月	7月	8月	9月
26日	10日 24日	14日 28日	12日 26日	9日 23日	13日 27日

石沢進植物博士はこの日に合わせて来村予定です。

新年度が始まりました。1月の年初めとは違った、背筋がピリツと伸びる感じがする4月の年度初め。色々な別れや出会いの時期だなくと昔を懐かしく思いながらも、新たな新年度に改めて気を引き締めたいと思います。公民館報も新年度に合わせてリニューアルをしてきました。今年度も村民の方々により村の魅力伝えられる存在になつていきたいと思ひます。季節の移り変わりや伝統行事などこの時代だからこそ大切なことが栄村にはいっぱいあると思ひます。そんな素晴らしい魅力を存分に伝えていけるように頑張つていきたいと思ひます。これが私の新年度の目標…かな!?

編集後記

⑧

